

食支援つうしん

—新宿食支援研究会通信—
第12号 2015.12.1 発行

「聴く」から見つける摂食嚥下障害

本年1月、私はI型糖尿病を発症しました(成人でのI型発症は稀で、年間10万人に1.5人程度とされています)。昨年末に口渇と急激な体重減少があったので、病院で血液検査をしてもらったところ、HbA1C値が13.3と非常に高く、即入院となりました。その後から、毎日4回の血糖値測定とインスリン注射を継続したところ、現在ではHbA1C値は6.7まで下がりました。これまで自由に食事が摂れていたことが如何に有難かったかを、この病を患って思いかえさせてもらっています。

私の日常業務は、訪問マッサージ導入前のADL確認と主訴を確認することです。導入後の事も踏まえ、会話に多くの時間を割くことを心がけています。最近、紙面で「口腔機能を疑う声の変化」との記事を見つけました。「もごもご喋る」、「がらがら声で喋る」、「ぱ」が「ふぁ」に聞こえる、「た」が「さ」や「ちゃ」に聞こえる、「か」が「は」のように、「き」が「ち」のように聞こえる、というものです。それぞれ理由は、唾液溜まり、舌の運動障害、軟口蓋の筋力低下、パーキンソン病などの他の疾患の影響、入れ歯の不具合などということでした。

私は、ご利用者様宅に訪問時、以上のような状況の変化に早く気づき、身近な専門家へ繋ぐことを実践することで、「最期まで口から食べられる街、新宿」に貢献していきたいです。(渉外 竹野 勝行)

在宅医療における言語聴覚士の役割

第3回 口腔ケアについて

なぜ、口腔ケアを行うことは、良いとされるのでしょうか？口腔内の清潔を保つためでしょうか？誤嚥を防ぐためでしょうか？ご本人の気持ち悪さの軽減のためでしょうか？実は、すべて正しいと思います。しかし、私は、それら以上にQOLの向上が一番大きな理由だと思っています。以下にある文献からの引用文を一部掲載します。

『『口腔ケア』の最大の目的は、QOL(クオリティ・オブ・ライフ=生活の質)を高め、口腔から体全体を健やかにすることにあります。自分の口で食べられることは、身体と心が健康であるために大切なことです。また、家族や友人と楽しく会話ができることも、充実した生活を送るうえでも大切です。思うように食べられ、思うように話すことができるというのは当たり前のように、実はとても大切なことです。いつまでも“その人らしい”身体も心も豊かな生活ができるように、口腔ケアはお手伝いをしています。”

「食べること」と「話すこと」は別のことのようにですが、使っている器官はほぼ一緒です。その入り口とも言える口腔内のケアを行うことがどれだけ大事かを今一度認識し、多くの方に伝えていくことが私たちの使命だと思っています。

(言語聴覚士
佐藤 亜沙美)



食支援サポーター研修

～概論編～

社会福祉士 森岡 慎也

新宿食支援研究会（新食研）では、来年度から地域食支援の主役となる「食支援サポーター」「食支援リーダー」資格養成講座を本格始動します。11月に行った勉強会は、「食支援サポーター」資格養成講座のプレオープン講座でした。

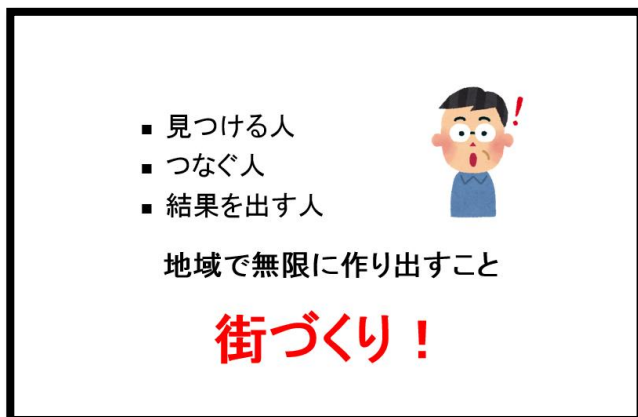
「食支援」とは、本人や家族が口から食べたいという希望がある、もしくは身体的に栄養ケアの必要がある人に対し、①適切な栄養摂取、②経口摂取の維持、③食を楽しむこと、を目的として、リスクマネジメントの視点を持ち、適切な支援を行っていくことです。

新宿区内には、摂食・嚥下に問題のある高齢者が推計で10,000人以上いると考えられております。食支援を必要とする方を地域で早期に発見し、そして専門職につないで支援していくために、地域住民の方や地域で働く専門職にもっと食支援のことをわかっていただく、興味を持っていただく必要があります。そこで新食研マイスターWGでは、「食支援マイスター制度」という資格制度を考えました。

食支援マイスター制度には「食支援サポーター」「食支援リーダー」「食支援マイスター」という3つの資格があります。

まず、食支援サポーターとは、適切な栄養摂取・経口摂取の維持・食を楽しむことができなくなった人を見つけ、適切な支援者につなぐ人です。この資格については、新食研の定める概論講座および任意の各

論2講座(興味のある10種の専門職講座か



- 見つける人
- つなぐ人
- 結果を出す人

地域で無限に作り出すこと

街づくり！

ら選ぶことができます)を受講する事で認定を受けることができます。この受講認定者には食支援サポーターリングが贈られます。

次に、食支援リーダーとは、食支援サポーターの資格を有する人で、さらに結果を出せる人です。この資格については、新食研の定める概論講座および全各論10講座を受講する事で認定を受けることができます。この受講認定者には認定証が贈られ、新食研ホームページで紹介する等を考えております。

最後に、食支援マイスターは、各講座で講師ができるレベルの人であることを検討しております。

具体的な資格取得講座の受講機会やホームページ上の公開方法については、現在検討中です。来年度早々のスタートを目指して、今後、さらに内容を詰めていきます。

